

ソ連の運命（新しき世界へ 1971 年 11-12 月号）

最近私は「科学の仲間」（理論社）十二巻の中、十巻をよんだ。これは中学生のためのモノであるが、その程度の高さ、教え方の巧みさにはオドロキがある。コレラは十数年前にかかれたモノである。だから撮近の宇宙航空技術が断然、アメリカを引き離したのも当然である。

しかし、コレラノ本を通じてサラニおどろくべき事を私は発見した。

- (一) 哲学が全くない!
- (二) 科学か技術におちている。
- (三) こどもの純なオドロキの芽を殺している。
- (四) 幸福(無限の自由・絶対の正義・永遠の幸せ・健康・美)を全く科学の力とすりかえている。
- (五) 判断力・自己ヒハン力を強くする努力も、計画もない。

つまり (一) が根本原因である。このシリーズは科学を教えるモノであるから、当然と云えば云えるが、ソレナラ別に哲学的な、自由・正義・幸福を教えるモノがあるのだろうか。あるとすれば、それがモー、二元論の悲しさである。

第一巻は、レペシンスカヤの自伝的物語であるから、大へんケッコオだと思ったが、ソレでも偉大な幻影—自由・正義・幸福—をとくモノではない。

コトニ、第十二巻「食欲とは何か」は最も拙劣、愚劣なモノで百年も前の古くさいフォイトの栄養学のウケ売りである。日本の佐伯栄養学式である。この栄養学が、人類の最近の、空前の悲劇を招いた第一の主犯である。実に悲しむべきモノがある。

□ 結論…ソ連の科学者、ミチューリン、パブロフ、メンデレーフ等を通じて、スベテ弁証法と云うマルクス哲学の大黒柱を喰う白アリである。

フランス大革命、西欧現代文明の母胎は科学の父ラボアジエーを殺したが、しかしヂドロオに始まったその精神…百科全書主義…は哲学的なモノであった。

ルイセンコは大へん弁証法的なモノをもっていたが、スイ星のように惜しいコトに消えてしまった。革命は、その本質は、反抗、暴力である。結局哲学的、思想的、世界観的なモノではない。だからコノ結果である。マルクスの革命思想は、弁証法と云う東洋の根本思想を借りただけのコトであった！ソレ自身、東洋の世界観の奪還でも再建でもなかった。

技術(科学・西洋思想・西洋哲学)なき哲学は無用であり、アヘンの如く人を骨ヌキにする。哲学なき技術は人間を殺す。六カシイコトだ。

キリストやシャカ、老子や荘子、孫子などの革命はアクマデ思想的なモノで、より偉大な幻影を人に見せるモノだったが、ソレでも現代見るようなアサマシイ宗教屋、哲学屋渡世におちている。

ちょうど米国にきて一カ月たった。昨夜は P.U 料理講習であった。このミチオの家はマンハッタンから地下鉄で 30 分位はなれた処にある。地下鉄を下りてから 7、8 分の所であるが、NY 市の中心ギンザの目抜きにある「ムスビ」の家とちがって、ちょっとヘンピである。にもかかわらず 15 人も来た。大部分の人が、この家を探しあてずに帰ってしまうだろう、と思っていた。私自身が地下鉄から 7、8 分と云うこの家を見出すのに三回失敗し、一回は 2 時間も歩いた。よくもミナ来たものである。これだけの探求心があるには、実際おどろく。しかし料理(6 時半から)試食の後で 11 時まで私が話してみると、サラに驚いた。全く弁証法と云うモノの分るような人々は一人もない。

ここに私を考えさせた大問題がある。この人々では、結局 P.U も正食も原理なき、哲学なき技術におちるのは必然である。四、五人の女性はマコトにすばらしい進歩を示していた。美しくなった。コトニ大人しくなった女性、幸福になった女性もある。しかしソレはタダノ美や、幸福や、健康のタメの努力である。

私はヤヤもすると失望しかける。こんな人々を相手にしていたら、トテモ PU を普及するコトは出来ない。ゼツタイ出来ない。こんな有閑人を救ってやるコトは、ラクダに針の穴を通る魔法を教えてやるコトになってしまう。

9 月 4 日の 5 時間討論会で、私がボロを出さずにすんだので、方々からお座敷がかかって来る。大雑誌 CUE からも申込みがある。ZEN と東洋哲学の二冊を美しいセットにして大々的にうり出そう、と云って来る出版社もある。

8 月 24 日以来、『黒と白』週刊(仏)に連載されている私の紹介をよんで、「オーサワ、ブラボオ」と電信をうって来た医者もある。私は今やトオトオ檜舞台にさしかかったらしい。ソレだけに、私の心はイタクこの問題…哲学なき大衆、渡世バカリの国の失望…になやむ。

私は正に岐路に立っている。

老子は消える!

私はモー消え去るべきであるのか?!

ソレトモもう少し、あそぶか?!

イヤ、私はより大きな困難を求めて進むべきである!

×

ノ連はモー来るトコロまで来てしまった。ソレは技術ダオレになる見通しがコクなっている。ソ連の運命はモー定った。ノ連のキューバ作戦はスゴイ。しかしソレだけである。アメリカ資本主義世界を征服したトコロが、何になる。この国はモー生物学的、生理学的に亡んでいる。今 N 博士が訳出中の ZEN の中に 3 年前に、私はソレを数字をあげて説明した。ソレは日本の敗戦を戦争の始まる 12 ヶ月前にハッキリ断言したのと同様である。

モー10 年を出ずして、米国黄金王朝は没落し去る。現在毎日船で莫大な金が欧州から送られている。ソレはユダヤ黄金王朝の実権を救う輸血である。

ソ連がソノ次である。ソレはモー30年さきの話だ。

ああ、哲学と科学を一つにとくモノ、理解するモノはいないのか!!!

(GOL3597、1962,9,13、「新しき世界へ」322号より)

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください